

1 分野別方針～市民生活を切り口として～

現状と課題について

全体

- ・ どんな課題にせよ地域（顔見知りの範囲）が取り組めるサイズにすることが大切。
- ・ 近所の方の支えで一つの家庭が成り立っていると考えるとすべての問題が繋がっている。

政策の基本方向について

- ・ 市民が住みやすいまちにするという目線で政策の洗い直しを。
- ・ 様々な条例を理解する機会を。

市民と行政の役割分担と共汗について

- ・ 行政は、様々な問題を縦割りではなく、うまく横につなげて各地域のフォローを。

10年後に目指すべき姿について

人権・男女共同参画

- ・ 人権は人が根本的に持っているニーズをどう保障していくかという問題。
- ・ 子どもや高齢者の人権が新たな人権として出てきている。

- ・ 人権問題の解決には、市民と議論しながらやっていく方法を考えなければならない。
- ・ 個々の人権で考えるのではなく、人として根源的な尊厳を守るニーズをどう満たすのかという視点で考えれば、それぞれが分断されず、つながりができるのではないか。
- ・ 同和行政終結後、現実に残っている問題は同和地区だけの問題ではなく、そこに焦点を当てただけでは根本的に人権とは何かということが市民の中に根付かない。
- ・ 格差の原因はそれぞれ異なっており、そこに眼差しを注いでいく必要がある。
- ・ 人権を語るときには、外国籍市民や障害者のことは常に外してはならない。
- ・ 母親の社会参加も重要だが、人間の基礎づくりの期間である赤ちゃんの人権も大切。
- ・ 男女共同参画社会の実現には青少年以外への啓発も重要。

- ・ 教育の機会均等などの保障が進んできた中では、市民としての義務を果たしていく必要がある。行政も施策の成果を押し付けるのではなく地域住民の理解を求め、共有する努力が必要。
- ・ 子どもの人権のため、有益な情報を得ることができない親への情報提供を。

- ・ 男性が家事を手伝わなければ母親に負担がかかり、それが子どもに影響する。色々な人が支えあって子育てをするのが理想の姿。
- ・ 京都市役所が範を示し、女性幹部比率が全国1位となる目標値を。

青少年対策

- ・ 京都市は早くからユースサービスの理念に基づいて取り組んでいる。
- ・ ニートや不登校の原因は教育の問題。特に家庭での教育が重要。ただ、両親も子どもたちも忙しい。周囲の支えが必要。
- ・ どこかに居場所があることが大切。地域や大学、学校との連携も必要。
- ・ 昔に比べ、引きこもりがなぜ増えているのかを考え、議論しなければならない。

- ・ 青少年を主体に置いて、彼らが自己成長するにはどうすれば良いかという視点で考える、という理念はとても大切。今後も継続すべき。
- ・ 社会生活を営むための基本的なルールをきちんと教えることが必要。
- ・ 引きこもりの青少年が外に出られるよう積極的に働きかけることが必要。
- ・ 地域におけるコミュニケーションが重要。

市民生活

- ・ コミュニティの自治や地域分権にリアリティを持たせることが必要。
- ・ 色々な取組を進めるには地域のコミュニティを活性化することが重要。
- ・ 高齢者の消費相談が増えていることの一因は、高齢者が地域から孤立していること。

- ・ 地域コミュニティは、うるおい部会の課題を横に貫く大事なキーワード。
- ・ 地域コミュニティを育てることに最も力を入れてほしい。
- ・ 地域の在り方、地域との手の結び方を考えなければ京都市だけでは物事が進まない。
- ・ 非行に走った子は周りに関わる体験が足りない。バランスよい成長をどう支えるかが大切。
- ・ 非行など、少し困る方も含めてどうコミュニティの一員とするかとの視点も大切。
- ・ 100%安心・安全というのは無理な話で、心配や不安を少しずつ分け合いながらどう生きていくのかという方向で考えなければならない。
- ・ 地域コミュニティ、学校、大学が繋がる仕組みをつくり、支えることが重要。

2 京都の未来像と重点戦略

京都の未来像について

- ・ 「低炭素の京都」は市民から見たときにもう少し分かりやすい言い方がないか。
- ・ 「協力社会をつくる」は、「共汗する社会をつくる」の方がよいのではないか。
- ・ 「低炭素の京都」の内容に「もったいない」や「しまつの文化」を入れてはどうか。

重点戦略について

- ・ 「ソフトパワーを活かす」とあるが、ソフトとハードを融合したスマートパワーのように、歴史と新しいものを融合してきた京都にふさわしい、更に一步先を行く戦略を。
- ・ 「少子長寿社会における世代間交流」について、少子化は避けるべきものであり、「長寿社会」だけでも良いのではないか。